

## 【アピール】

### 戦争も改憲も許さない！

「憲法改悪を許さない全国署名」を5月19日に提出します。目前の参議院選挙に向け、5・3憲法記念日を節に集めつくしましょう

2022年4月18日

9条改憲NO！全国市民アクション  
戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

ロシアによるウクライナ侵略から約2カ月、国際世論と国連憲章などのルールの方で侵略をとめ、戦争犯罪者を裁きに向け、平和の秩序の回復を、と国内外で行動が積み重ねられています。

その時に、この惨事を千載一遇の好機とばかり、「9条で国は守れるのか」との憲法の攻撃や、「核共有」・非核三原則見直し、敵基地攻撃能力保有などの憲法破壊と大軍拡の動きが、自民党や日本維新の会などから繰り返されています。

3月の自民党大会では、「改憲4項目」にもとづく改憲発議をめざした「憲法改正の国民意識の高揚をはかる」、「国会・憲法審査会での論議の促進」との方針を決め、岸田首相が「国民との対話」を強調しました。自民・公明与党と日本維新の会は国会内の多数を背景に国民民主党も巻き込んで、憲法審査会の毎週開催で足並みを揃え、「オンライン国会」に関して憲法56条1項の「出席」の解釈を採決で決し、緊急事態条項の議論を重ねるなど、改憲発議への動きを加速させています。

民意は「憲法改正」など望んでいません。安倍元首相の「2020年に新憲法を」の企みは、世論の力ではね返し、主唱者を退陣に追い込みました。今年の総選挙で各党党首らは「憲法」をほとんど口にせず、争点ではありませんでした。各種世論調査でも、重視する政策課題として「憲法改正」をあげる声は極めて少数でしかありません。民意と改憲勢力の国会論議には著しいかい離があります。

全国各地で取り組まれている「憲法改悪を許さない全国署名」運動では、ウクライナ問題で「何かしないといけない」「何かしたい」という市民の思いと結びつき、対話が弾み、「戦争も改憲も許さない」と署名が寄せられています。

「戦争か平和か」が問われ、日本の進路を決するともいうべき参議院選挙は2か月後に迫っています。この選挙で、市民と野党の共闘を継続、発展させて改憲ストップの勢力の議席を3分の1以上獲得しなければなりません。

5月3日の憲法記念日に施行75年を迎える日本国憲法は最大の危機にあり、「憲法を守り生かすか、改憲か」が「草の根の対決」となっています。

9条改憲NO！全国市民アクションと戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、参議院選挙にむけ、「憲法改悪を許さない全国署名」運動を大きく取り組み、5・3憲法記念日を節に、地域で、街頭で、職場で、学校で、知り合い・友人の間で、仲間同士相談し合い、力を合わせ署名を集めつくすことを改めて訴えます。

署名の国会提出を予定する5月19日の「第78回19日国会行動」には、全国から寄せられる署名を1人分でも多く国会に提出し、民意のありかを示すことができるよう呼びかけます。